

V-44 山目校舎 小学部

1 授業研究会について

月 日	領域教科名	単元名	対 象	指導者
H25年 6月19日	日常生活の指導	「朝の活動」	なのはな1組 (3名)	千葉育子 (T1)
7月10日	生活単元学習 ・国語	「学校の花だんのおせわをしよう」 「みつけたことを書こう」	なのはな2組 (2名)	遠藤綾子
8月28日	自立活動	「しんぶんしで あそぼう」	わかば1組(2名) なのはな1組(3名)	千葉佳絵 (T1)
9月26日	自立活動	「プレゼント作り」	わかば4組 (3名)	高橋志保 (T1)
11月20日	自立活動	「ドレミタイム」	わかば1～4組 (9名)	鎌田円 (T1)

山目校舎小学部には、なのはな学級（知的障がい）とわかば学級（病弱・肢体不自由）25名の児童が在籍している。小学部段階における自己有用感向上のための支援の在り方について深めるべく、両方の学級で授業研究会を行った。

グループの構成は、学級・学年ごとの指導が中心の「日常生活の指導」「生活単元学習」では低・中・高学年の担当者毎、学年の枠を越えた集団での指導が中心の「自立活動」では、低・中・高学年担当者混合とした。児童の実態やそれぞれの発達段階を加味し、様々な角度から授業を検討し、意見を交換できた。

2 発達段階に応じた自己有用感・自己有用感向上のための支援について

(1) 授業実践を通して得られた有効な支援

○コミュニケーション力を高める

- ・伝えたいことが相手に伝わる経験の積み重ね（児童の気持ちをくみ取る）
- ・友だち同士の自然な関わりの場面の設定
- ・児童が「分かってもらえた」と思える関わり方

（児童の驚きや気づきへの共感、体験や感動の共有）

○心の安定を図る

- ・満足感の得られる活動量の準備
- ・「できた」という達成感が感じられていく取り組み
- ・安心できる場所、楽しい場所ということ伝える
- ・教材の工夫や個に応じることから集中して取り組める場面の設定
- ・認められる経験を増やしていく

※ 網掛けは小学部キャリア教育目標と関わりのある部分

- ・集団での活動の良さ（大好きな友だちとの活動の設定）

○自主性を高める

- ・視覚支援、場の構造化など児童に応じた分かりやすい提示
- ・見通しがもてるための学習内容の組み立て
- ・「気づき」（自分で考える）を大切にする
- ・やるべきことが分かり、進んで取り組めるようにする

○活動のつながりをもたせていく

- ・体験的を活かした学習活動
- ・家庭生活への般化

○評価の工夫を行う

- ・即時評価をする

支援について、小学部のキャリア教育目標に照らし合わせてみると、総合生活力に関する支援が多く確認された。

(2) まとめ

山目小学部においては、5回の授業研究会を実施してきた。授業研究会においては、様々な角度からの意見が出され、自己有用感に関わる支援について深めることができた。

授業を通して、自己有用感の向上のための支援として挙げられたのは「コミュニケーション力を高める」「心の安定を図る」「自主性を高める」「活動のつながり」「評価の工夫を行う」である。その中においてもすべての授業に共通した有効な支援は、「コミュニケーション力を高める」「心の安定を図る」「自主性を高める」であった。授業実践を通して自己有用感を高めるための具体的な支援の方策が出されたことは成果として挙げられる。

それらの支援を通して大切な支援は以下の3点である。

- ①児童が安心して学校生活を送る心の安定を図ること。
- ②子どもを活かせるような環境設定（できる状況作り）を行い、自分の力で最後までやり遂げることで成就感・達成感を味わわせること
- ③他者との人間関係の良さを体験させていくことが大切。

また、キャリア教育目標にこれらの支援を照らし合わせてみると「総合生活力」に比重がおかれていた。将来の社会人・職業人として自立して生きるための素地を形成していることが確認された。キャリア教育目標については、児童の成長と共に見直していく必要もある。

課題としては、人間関係を深めていくための支援（学習集団の作り方、授業における関わりの設定など）、上の学部へのつながりを考え、小学部段階では、何をすべきかを再考していく必要がある。